

森づくりサポーターニュース

平成23年(2011)9月15日発行

びわこ地球市民の森(森づくりセンター)

〒524-0101 守山市今浜町3089 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312
メールアドレス moridukuri@ex.biwa.ne.jp URL <http://www.ex.biwa.ne.jp/moridukuri/>

夏のサポーター活動



↑暑い中での懸命な育樹作業



↑うっそうとした森がこんなに明るく、広々しました。↓



↓小さな力が森を育みます(ドングリのポット苗づくり)



7月23日(土)に、本年度第2回目の森づくりサポーター活動を実施しました。
今年の夏も昨年同様猛暑日が続いており、参加人数を心配しておりましたが、77名(うちガールスカウト32名)もの参加がありました。

サポーターの皆さんには、「ふれあいゾーン」で2004年に植樹した地区について、除草やクズの除去、間伐等の作業をしていただきました。

炎天下にも関わらず、根気のいる作業を一生懸命していただき、予定していた地区の作業を終えることが出来ました。

お陰様で、作業後の森の状況は見違えるように明るく、風通しがよくなりました。

一方、ガールスカウトの皆さんには、中村先生から「ビオトープ」のお話を聞いた後、苗畑で「ドングリのポット苗づくり」をしたり、間伐材で「木のモバイル」づくりをして楽しんでもらいました。

そのあと、大人も児童も恒例のスイカを食べての暑気払いとなり、汗を流した後のスイカは格別おいしかったです。

猛暑の中、森を育てる活動に参加していただいたサポーターの皆様、本当にご苦労さまでした。

ビオトープシリーズ その4

琵琶湖におけるビオトープの保全について

～「滋賀県ビオトープネットワーク長期構想」～

滋賀県では、これまでに1万種を越える野生動植物（外来種を除く）が確認されています。また、特に滋賀県あるいは琵琶湖水系だけにしかない固有種は、60種を越えていて、生物多様性についての独自性が高いとされています。

ビオトープをとりまく環境が、今や急速に悪化してきている中で、平成21年2月に滋賀県では次のような長期構想を策定されました。

この長期構想の目標は、ズバリその名のとおり滋賀県内のビオトープの保全であり、このほかビオトープの再生とネットワーク化が目標とされています。

この長期構想では、「マザーレイク21計画」の計画期間と整合を図り、おおむね2050年頃の滋賀県の自然環境の望ましい将来像を地図上で示すとともに、それを実現していくための方策が定められています。

この長期構想の背景としましては、平成18年3月に制定された「野生動植物の共生条例」がありました。その第9条によって、県は野生動植物の個体の生息および生育の環境の保全および再生ならびにネットワーク化に関する長期的な構想を策定すると定められていました。

ビオトープの保全・再生・ネットワーク化の方針としましては、国際自然保護連合（IUCN）によって提唱されているビオトープの6つの原則[生物生息空間はなるべく広い方が良いとか、不連続な生物空間はエコロジカル・コリドー（生態学的回廊）でつないだ方が良いなど]が重要視されています。

野生動植物の安定した生存や減少からの回復を図るためには、十分な規模のビオトープのまとまりを核としながら、物理的なつながりを維持できるような生態系ネットワークが形成された県土が必要であると考えられています。



新・旧野洲川の河口地域



園内・ふれあい池の鳥たち

具体的には、ビオトープとして重要とされる地域の重なり状況に基づいて、県内に16地域のコア・エリア（重要拠点区域）と10本の県内河川がエコロジカル・コリドーとして指定されています。

また、推進方策として、ビオトープタイプ毎の事業の実施や保全・再生・ネットワーク化を評価することなどが定められています。

この長期構想に位置づけられたビオトープの保全・再生・ネットワーク化が実現に向かっているかどうかの点検は、第1期の終了する2010年度末と、その後は、おおむね10年おきにモニタリングを行うほか、短期的な点検・見直しは、おおむね5年おきに行われることになっています。

この構想では、**びわこ地球市民の森**は、野洲川河口部にあり、重要な生態学的回廊としても期待されています。今後ともサポーターの皆さんのご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

今回は、お釈迦さまにちなんだ樹木のお話です。

【娑羅双樹と夏椿】

娑羅双樹は、「さらそうじゅ」、「しゃらそうじゅ」または「さらのき」ともいい、インド原産のフタバガキ科のサラノキ属の常緑高木です。「沙羅」は梵語（古代インドの文語）で「高遠」の意で他の樹木より「抜きん出て高い」を意味していました。そのフタバガキ科の樹木はボルネオ島やスマトラ島を含め東南アジアでは大木となって広く分布していて、熱帯多雨林の重要な構成種となっています。日本が外材として大量に輸入してきたラワンもこの仲間です。

ところで、お釈迦さまがインドの拘尸那（くしな）城外の跋提河（ばっだいが）（ガンジス川中流部の支川）の河畔で亡くなったとき、仏の臥していた七宝の牀（しょう：細長い台）の四方に沙羅樹が各一双、併せて八株あったが、とたんに四方の双樹が合してそれぞれ一本となって仏涅槃の床に覆いかぶさり、鶴のように白色に変じたとの伝承がありました。また、釈尊の誕生は、摩耶夫人がルンビ二園にて、緑葉高木の鮮やかな赤い色の花をつけた無憂樹（むゆうじゅ）の下でのことだったとの伝承があります。無憂樹は、マメ科のサラカ属の種で別名、阿輪迦樹（あしゅかじゅ）ともいい、アシュカの意味は、憂いのないこと、恐れがないことです。

それゆえ、仏教では、この無憂樹と娑羅双樹、そしてインド菩提樹が三大聖木とされています。

日本で娑羅双樹が人口に膾炙（かいしゃ）されるようになったのは「平家物語」の冒頭部分があるからなのでしょう。

「ぎをんしゃうじや 祇園精舎の鐘の聲、こゑ 諸行無常の響きあり。」に続いて「しゃら そうじゅ 娑羅雙樹の花の色、じやうじや 盛者必衰の理を顕す。おご ぞれる者……」は有名な物語のプロローグの部分ですね。

日本では現在でも、温室を備えた植物園以外で見かけることはまずない樹木なので、ここでの娑羅双樹は「夏椿」のことをさしていると考えられています。日本では「夏椿（なつつばき）」のことを娑羅双樹として扱われることが多いのですが、これは正しくありません。

夏椿は「沙羅の木」（しゃらのき）ともいい、語呂は娑羅双樹かのようにですが、科も全く違うツバキ科のナツツバキ属です。では、なぜ夏椿がこの「娑羅双樹」に間違われたのか…。昔、ある僧侶が、仏教にゆかりのある娑羅双樹の樹は日本にもきつとあるはず、と山に入っているところ、白いさわやかな花をつけた夏椿の木を見て「これが娑羅双樹だ！」と思い込み、それを広めたため、お寺によく植えられるようになったからとのことです。

次回は、「菩提樹」（ぼだいじゅ）のお話をします。



夏椿

森

づくりトピックス



これは何の実でしょうか？



大きな球状の艶やかな実は「**榎の実**」です。
 夏の暑さが進む程、艶のある紅色を増していきます。
 熟すと自然に背が割れて中から堅い暗褐色の種がこぼれます。
 この種を絞ったものが「榎油」です。
 さすがに榎油は作れませんが、実や種を使ってクラフト
 してみました！



てんとう虫

カードスタンド

木の実のリース

お知らせ

第3回森づくりサポーター活動

平成23年度第3回目の「森づくりサポーター活動」を次のとおり実施します。
 当日は、森の横で今浜自治会の「コスモス祭り」が開催され、サポーターの
 皆さんも参加していただけます。

- 実施期日** 平成**23**年**10**月**9**日(日)
- 開催場所** びわこ地球市民の森
- 活動内容** 間伐・枝落とし・ドングリの植えつけ



2011年8月末現在

植栽面積	68,588㎡
参加者数	38,150人
植栽本数	136,820本
つどいのゾーン	23,599本
ふれあいゾーン	37,459本
出会いのゾーン	21,158本
里の森ゾーン	54,604本

編集後記

厳しい残暑が続いていますが、暦の上では、もう秋です。これから徐々に森の風景も緑一色からカラフルに変化してきます。紅葉に彩られた秋山を「山粧う」と表すようですが、まさに「森粧う」変化が楽しみな季節となります。サポーターの皆さん、森の様子を見にお気軽にお立ち寄り下さい。お待ちしております。